

平成29年度の 予算が 決まりました

合計
2,842億6,268万6千円
(前年度比13億5,120万2千円増)

一般会計 1,588億5,000万円
特別会計 1,254億1,268万6千円

総合計画で掲げる重点テーマ
「じんせい」「じんご」「地域」の
3本の柱を中心に、
主な事業や予算の特徴に
ついてお知らせするね



児童が放課後も安心して 過ごせる環境づくり

重点

待機児童解消のため、放課後児童クラブ（旧留守家庭児童会）を新たに開設し、定員を約390人拡充します。また、放課後児童健全育成事業を行う民間事業者への補助を新たに3か所増やします。

関連予算 **1億2,525万1千円**

病気やけがのときの 保育施設を整備

新規
重点

子供が病気やけがをしたとき、保護者が仕事等の事情によって自宅で保育することが難しい場合、その子供を一時的に保育するための施設整備に対する補助を行います。

関連予算 **1,601万9千円**

地域で子育てを支援 するための拠点を増設

重点

子育て中の不安や孤独感などに対応するため、新たに「もりもりパーク」内にも地域子育て支援センターを設け、育児相談や親子遊びの広場の提供、育児講座などを行います。

関連予算 **6,100万5千円**

保護者が安心して 働ける環境づくり

重点

待機児童解消のため、既存保育所等の増改築8か所、小規模保育事業の整備3か所、通年制保育園から認定こども園への移行整備4か所に建設補助を行い、定員を約750人拡充します。

関連予算 **16億4,728万8千円**

こども

子供が地域で生き生きと育ち
未来に希望を持てるように



経済的に支援が必要な家庭への 就学援助の充実

小学校と中学校の児童生徒の就学を支援するため、経済的に困っている保護者に対する新入学用品費の助成額を増額するとともに、新たに中学生のクラブ活動への助成を行います。

関連予算 **5億7,745万3千円**

子供が希望を持って 成長できるように

新規
重点

子供の生活環境などを把握するための調査を実施するとともに、「子ども食堂」の会場使用料に対する補助金や、児童養護施設等の子供に対し、卒業後の就職・進学等に掛かる支度金を支給します。

関連予算 **555万円**

特別な支援を必要とする 児童生徒のために

重点

児童生徒一人一人に必要な支援を充実させるため、小・中学校の補助指導員を増員します。また、医療的ケアが必要な児童生徒に対応するため、看護師の資格を持つ補助指導員を新たに配置します。

関連予算 **1億1,778万円**

児童生徒や保護者の 学校生活での悩みに対応

重点

児童生徒の不安の解消を図り、安心して学校生活を送ることができるよう、児童生徒や保護者へのカウンセリングを行うスクールカウンセラーの学校への派遣回数を増やします。

関連予算 **1,024万3千円**

未来を担う子供が
健やかに育つ
環境の整備が
大事だね





しごと

企業誘致や地元での就職支援、
観光の推進等で、活力とにぎわいを創出

生き生きと
働ける場や
人材が増えると
まちが元気になるね



地域経済の活性化の ために企業誘致を推進

重点

周辺3町や経済界と連携しながら、企業との折衝や情報収集、(仮称)動物園通り産業団地の分譲予約受付に伴うPR活動を行うなど、企業誘致をさらに進めます。

関連予算 **2,600万円**

旭川空港の利用を促進

重点

国内・国際路線の維持・拡充のため、旭川空港の利用促進に向けたPR活動や運航支援を実施。また、国際線ターミナルビル整備に向けて、観光バス駐車場の移設や駐車場の新設工事等を行います。

関連予算 **3億8,055万4千円**

意欲を持って営農できる 環境の整備

新規
重点

競争力のある米の産地確立に向けて、農地集積を進める担い手の労働力や農業経営リスクを軽減するため、省力設備を備えた水稻育苗ハウスの導入を支援します。

関連予算 **700万円**

地域の観光振興のために

新規
重点

地域の観光資源を活用して魅力を高め、旭川市や旭川圏域の観光客誘致につなげるため、1市7町の連携による広域観光を推進する組織であるDMO(観光地域づくりを行う法人)の設立を支援します。

関連予算 **1,392万2千円**

若者の地元定着、U・I ターンによる就職を支援

重点

若者の地元定着や、U・Iターンを促進するため、地元企業の情報提供サイトの機能を強化します。また、大学や専修学校等を卒業後、市内で就職・居住した場合、奨学金返済の一部を助成します。

関連予算 **905万8千円**

姉妹・友好都市の 記念事業を実施

新規

アメリカ合衆国ブルーミントン・ノーマル両市との姉妹都市提携55周年、ロシア連邦ユジノサハリンスク市との友好都市提携50周年に当たり、記念事業などを行います。

関連予算 **1,370万円**

テレワークによる 柔軟な働き方を推進

新規
重点

ICT(情報通信技術)を活用した柔軟な働き方であるテレワーク(在宅勤務等)の普及や市内企業の導入支援を行います。また、大都市圏の仕事の、テレワークによる受注促進を図ります。

関連予算 **1,178万4千円**

地域が主体的に取り組む事業を支援

重点

市内15地域で展開する地域まちづくり推進協議会において、地域の特性を生かした多様なまちづくりを進めるために、地域が主体的に取り組む事業を支援します。

関連予算 1,025万円

地域

地域の特性を生かしたまちづくりを推進



市民サービスセンターの事業内容等を拡大

神楽支所で月1回試行的に実施している市民サービスセンターの開設日を増やします。また、届出の受付や証明書の交付、相談業務の他、マイナンバーに係る業務も新たに取り扱います。

関連予算 108万円



地域のみんなでまちづくりを支えて温もりのあるまちにしたいね

新庁舎の基本・実施設計に着手

現在の総合庁舎における耐震性不足や老朽化など様々な課題を解決するため、新庁舎の基本・実施設計に着手し、具体的な検討を進めます。

関連予算 2,965万3千円



スポーツ大会や合宿の誘致に向けて

重点

スポーツ人口の増加や競技力の向上を図るため、官民連携組織を設置してスポーツ大会や合宿の誘致活動、スポーツ観光のPR活動を行います。

関連予算 227万5千円

中央図書館の開館時間を試行的に拡大

新規

読書環境を充実させるため、7月から中央図書館の開館時間を試行的に拡大します。

関連予算 118万円

彫刻美術館を再開館

新規

改修工事のために休館していた彫刻美術館の再開館を記念して、ミニコンサートやバスツアーなどを行います。

関連予算 217万5千円

旭山動物園開園50周年

新規

旭山動物園開園50周年の記念誌の製作等を行う他、パネル展などにより、市民の皆さんと共にこれまでの歩みを振り返ります。また、次の50年に向けた内容を盛り込んだイベントなどを行います。

関連予算 600万円

平成29年度予算の収入と支出の内訳

一般会計は17億5千万円の増

一般会計は道路や公園の整備、学校の建設、福祉事業、市民活動の支援、ごみ処理、健康づくりなど、市民生活全般にわたる支出とそれに伴う収入などを経理する基本的な会計です。

今年度は、前年度に比べて、17億5千万円、1.1%の増となりました。

一般会計を支出500万円の
家計に例えると(図1)

一般会計を年間500万円の支出が必要な家計に例えると、左ページの図1のようになります。支出では、食費、教育費・医療費、ローンの返済など任意に削減できない経費(義務的経費)のうち、食費とローンの返済の割合は減少傾向にありますが、教育費・医療費は増加傾向にあります。



予算の詳しい内容は市庁で見られます

一般会計の収入と使い道(支出)

収入

1,588億5,000万円

市民1人当たりの市税収入は
11万6千円
※

市税……………399億円 **25.1%**
市民税、固定資産税、軽自動車税など

国庫支出金……………337億675万8千円 **21.2%**
個別の事業ごとに、国から交付される収入

地方交付税……………318億2,600万円 **20.0%**
市の財政力に応じて、国から交付される収入

市債……………150億720万円 **9.5%**
公共施設の建設事業等のための借入金

その他……………384億1,004万2千円 **24.2%**
地方消費税交付金、道から交付される収入、施設の使用料など

前年度からの主な増減額とその理由

個人市民税の増などにより、5億円の増

子育て支援の推進などにより、約11億4千万円の増

子育て関係事業費の増などにより、約6億3千万円の増

都市計画道路の整備の増などにより、約21億5千万円の増

市税収入の増などにより、16億7千万円の減

退職手当の減などにより、2億1千万円の減

臨時財政対策債の増などにより、約14億6千万円の増

貸付金の減などにより、約4億4千万円の減

旧旭川借行社の改修費の減などにより、約3億1千万円の減

支出

1,588億5,000万円

市民1人当たりの支出額は
46万3千円
※

民生費……………699億7,364万5千円 **44.0%**
生活保護、子育て支援、高齢者・障害者支援等の福祉事業など

土木費……………187億393万円 **11.8%**
道路や公園の整備、除排雪など

公債費……………179億8,613万9千円 **11.3%**
市債の返済とその利子

職員費……………175億円 **11.0%**
市職員の給料、退職手当など

商工・農林水産業費……………104億8,109万6千円 **6.6%**
商工業や農林業への支援など

衛生費……………94億5,571万1千円 **6.0%**
市民健康管理、医療助成費、ごみ収集や処理など

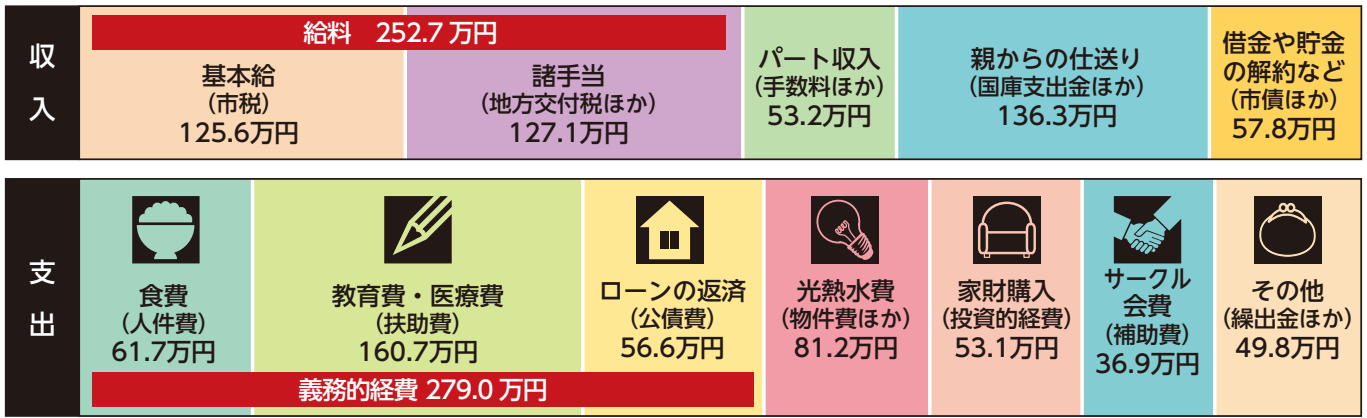
教育費……………86億8,718万1千円 **5.5%**
小・中学校の建設や運営など

その他……………60億6,229万8千円 **3.8%**
総務費、消防費、議会費など

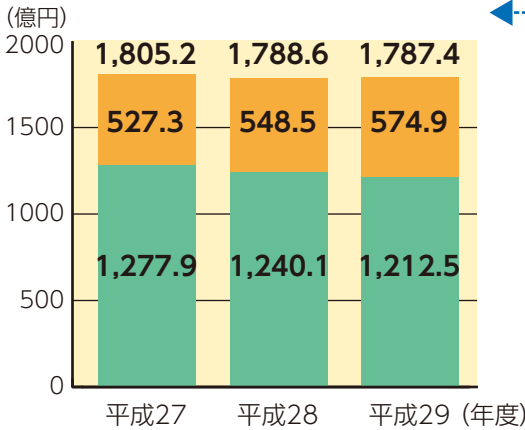


※ 1月1日現在の人口で計算。

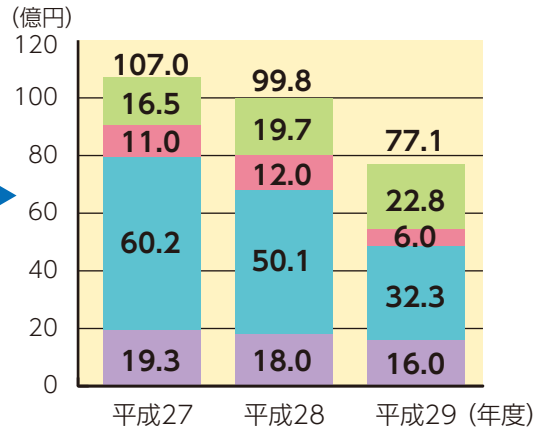
① 一般会計を年間支出500万円の家計に例えると



② 市債残高の状況



③ 基金残高の状況



④ 特別会計予算

国民健康保険事業	447億4,732万7千円	
動物園事業	15億2,006万8千円	
公共駐車場	8,821万円	
育英事業	1億435万4千円	
駅周辺開発事業	2億3,594万4千円	
簡易水道事業	1億1,107万5千円	
農業集落排水事業	4,017万2千円	
介護保険事業	340億8,261万7千円	
母子福祉資金等貸付事業	1億3,669万7千円	
後期高齢者医療事業	48億6,396万8千円	
企業会計	水道事業	110億9,260万円
	下水道事業	149億1,727万円
	病院事業	134億7,238万4千円
計	1,254億1,268万6千円	

市債残高の状況(グラフ②)
市債は一般家庭でいえば借金に当たり、公共施設の整備など、その年の税収だけでは賄えない資金の借入金です。
公共施設は長期にわたって使用するため、借り入れた資金を長期間で返済していくことで、世代間の負担を公平にする役割も果たしています。
市債残高は年々減少しています。

基金残高の状況(グラフ③)
基金は一般家庭でいえば貯金に当たり、毎年積み立てておいて、必要なときに取り崩して使います。今年度の財政調整基金は、収支不足のため、約2億円の積立で20億円の取崩しを見込んでいます。
今年度の予算は、昨年度スタートした第8次旭川市総合計画の重点テーマを柱に編成しました。地域を活性化し、さらに魅力あるまちを目指していくために、収入の確保や経費の節減など、安定的で持続可能な財政運営に努めます。

特別会計は約4億円の減
特別会計は、市民の皆さんからの使用料などをもとに事業を運営するため、一般会計とは別に設けている会計で、予算額は左の表のとおりです。今年度の総額は前年度と比べ3億9千879万8千円、0.3%の減となりました。

◎ 今年度の予算は、昨年度スタートした第8次旭川市総合計画の重点テーマを柱に編成しました。地域を活性化し、さらに魅力あるまちを目指していくために、収入の確保や経費の節減など、安定的で持続可能な財政運営に努めます。